

子を持つ家庭での新型コロナ対策について

ママプラグ内での各家庭の構成をA家～H家に分け、パターン別に現時点で考え得る最善の対策を考えてみた場合、以下ようになった。

各家庭で、考慮すべきポイントは以下の6点

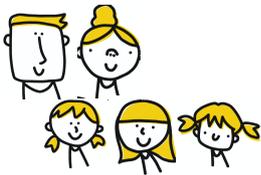
- ①家にハイリスク者（高齢者・持病有）が居るか
- ②子どもが自活できるか（人数・年齢による）
- ③隔離できる個室があるか
- ④家事や育児など、日常生活を任せられる大人が近くにいるか
- ⑤マスクや消毒剤、手袋などの備蓄があるか
- ⑥ホテルや病院などへの移動手段があるか

さらに、以下のパターンに分けて最善策を考慮する。

イ 父母のどちらかが感染したが軽症の場合（重症の場合は入院の選択肢のみ）

ロ 父母ともに感染したが軽症の場合（子どもは陰性だが濃厚接触者）

ハ 父母ともに感染し、重症の場合（子どもは陰性だが濃厚接触者）



A家

父 毎日テレワーク
母 毎日テレワーク
子 3人
(15歳/12歳/10歳)

①有（母喘息）②長女次女は可 ③有 ④特になし ⑤有 ⑥自家用車

イ：感染者はホテル滞在、または別室で隔離（フロ・トイレ共同）

ロ：感染者はホテル滞在または入院（喘息があるため）。

家事は長女と次女にオンラインで指示できれば指示しながら任せる

ハ：感染者は入院となるため、祖父母に非対面で食事を届けてもらうなどのサポートのみ依頼。日常生活の家事は長女と次女に依頼。

→長女と次女に、日常生活の依頼事項を事前から話しておく。

祖父母に、ロ・ハの場合のサポートを依頼しておく。



B家

父 毎日テレワーク
母 毎日テレワーク
子 2人（6歳/2歳）

①無 ②不可 ③無 ④無 ⑤有 ⑥無

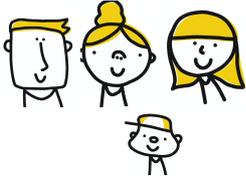
イ：感染者はホテル滞在。その場合の交通手段検討中

ロ：感染者はホテル滞在。

子どもが小さく、祖父母しか頼りがないため祖父母に保育依頼。

ハ：感染者は入院となるため、祖父母に保育を依頼。

→祖父母は高齢者のため、リスクが高いものの、現実的にそれしか安心できる方法が見当たらない。祖父母には話し合いが必須で、受け入れ態勢を事前に共通で検討しておく必要がある。



C家

父 週2テレワーク
母 毎日テレワーク
子 2人 (12歳/5歳)

①無 ②不可 ③有 ④姉 (独身・近隣) ⑤有 ⑥自家用車

イ：感染者はホテル滞在、または別室で隔離 (フロ・トイレ共同)

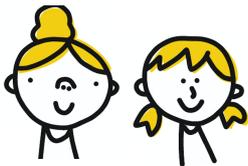
ロ：感染者はホテル滞在。

近隣在住の姉に合鍵を渡し、保育を依頼。

ハ：感染者は入院となるため、姉に保育を依頼。

→12歳の子どもは、自活は不可とみて、姉に緊急時の保育を依頼。

事前に合鍵を渡して、家事の説明をしておくなどの準備をしておく。



D家

母 毎日テレワーク
子 1人 (13歳)

①無 ②長女は可だが不安 ③有 ④ママ友 ⑤有 ⑥無

イ：感染者はホテル滞在、または別室で隔離 (フロ・トイレ共同)

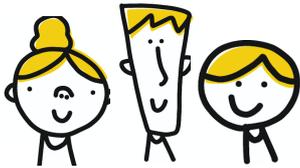
ロ：感染者はホテル滞在。

基本はオンラインで長女に指示出しをし、食事のサポートなどは近隣のママ友に非対面で依頼。

ハ：感染者は入院となるため、ママ友に家事サポートを非対面で依頼。

→長女に、日常生活の依頼事項を事前から話しておく。

頼れるママ友に事前から、相互サポートについて相談しておく。



E家

父 週5出勤 (医療関係)
母 週5出勤 (医療関係)
子 1人 (8歳) 発達障がい

①有 (感染リスク高) ②不可 ③有 ④無 ⑤有 ⑥自家用車

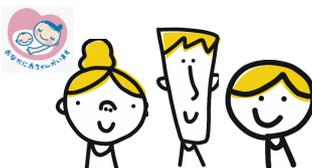
イ：感染者が父の場合ホテル滞在、母の場合テントで隔離 (トイレは携帯用を使用) ←家を離れるのは不安があるため

ロ：家族3人で家で隔離生活 (子どもとなるべく共に居たいため)

ハ：感染者は入院となるため、兄夫婦に保育依頼。

→家族で、隔離生活のシミュレーションを予め行っておく。

兄夫婦に、保育依頼や伝達事項をまとめて共有しておく。



F家

父 毎日テレワーク
母 毎日テレワーク
子 1人 (6歳) ・妊娠中

①有 (妊婦) ②不可 ③有 ④有 (姉夫婦) ⑤有 ⑥自家用車

イ：感染者はホテル滞在または入院 (産科医と相談の上)

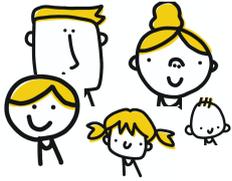
ロ：感染者はホテル滞在または入院 (産科医と相談の上)。

姉夫婦に保育を依頼。

ハ：感染者は入院となるため、姉夫婦に保育を依頼。

→家族は妊婦の心身サポートを最大限におこなう。

出産前後の対応について、産科医と予め相談しておく。



H家

父 週5出勤

母 午前中出勤

子 3人 (10歳/4歳/0歳)

①無 ②不可 ③有 ④無 ⑤有 ⑥自家用車

イ：感染者が父の場合はホテル滞在、母の場合は家で赤ちゃんを隔離しながら共同生活が希望（母乳育児のため）

ロ：父はホテル滞在、母は家で生活

ハ：感染者は入院となるため、0歳児は病院で保育依頼。他の2人は保育環境を模索中（高齢者の祖父母にお願いすることになるかも）

→**母乳育児中のため、離れて暮らすことは難しい。子どもが複数いる為、施設に相談するしかないが、不安が多い。現実的には、子どもが陰性であれば祖父母にお願いすることになる。**

<不安だと思う点>

- 子どもが小さいと、家で隔離生活に限度がある。（むしろ、家族全員が感染する覚悟の上生活するしかない）
- 高齢者の祖父母には頼みにくいですが、現実的に子どもが小さければ小さいほど、慣れている人に保育をお願いしたいので、祖父母を頼らざるを得ない場合もあるとおもう。
- 児童相談所や、保健所などが仮に預かってくれるとしても、不安しかないののでできれば身内に頼みたい。
- 子どもが陰性でも、偽陰性でのちに陽性になる可能性もある。その場合、保育依頼先からPCR検査を受けることが可能なのか。
- 例えば、子どもが自活できる年齢になっていたとしても、防犯面や健康面でサポートは必要。親が入院になった場合、非対面でどれほどのサポートを大人から受けることができるか。
- 病院やホテルへの移動手段がない。（タクシーが使えない上、救急車を呼ぶほどでもないのでは）

<各家庭で事前に準備しておくべきこと>

- 事態が急変した時のために、できるだけ食料や日用品の備蓄をしておく。
- 高齢者以外の親戚や近隣のママ・パパ友などと相談し、子どもの保育や家事のサポートをお願いできる体制を作っておく。
- 交通手段の確認をしておく
- オンラインで買い物や宅配サービスが受けられるよう、会員登録などをすませしておく
- 住んでいる地域の新型コロナ対策についてリサーチし、どのようなサポート体制があるかを知っておく（子どもの受け入れなどについては自治体によって様々です。）